



しらかし

目指す生徒像

尚学・共生・雄健

- ・自主・自学の向上心をもって学ぶ生徒
- ・温かい心で、よりよい人間関係を築く生徒
- ・めあてをもって心身を鍛える生徒

令和3年度 第19号

3月15日 発行

文責：米川

電話：022-356-8055

E-mail：shirakashi-jh@nifu.ed.jp

第30回卒業式

3月8日（火）に第30回卒業式を挙行了しました。今年も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、卒業記念合唱の中止や在校生、来賓の参加自粛等の制限を設けた中での式でした。卒業式を終え、木下校長は、「証書を授与された卒業生たちの目からは、4月から新たなステージで活躍するという希望に満ちあふれた頼もしさが伝わってきた」と話していました。

新型コロナウイルス感染症の感染が日本中でいっこうに収まらない中で無事に開催することができたのは、しらかし台中学校保護者の皆様をはじめとするたくさんの方々の関係者の皆様が、日頃から感染拡大防止のための取組をしっかりと行ってくれたおかげです。職員一同、心より御礼を申し上げます。

式辞

校長 木下 裕士

日に日に春の足音が近づき、光もその明るさを増してきました。本日、ここに、第30回卒業式を挙行するにあたり、利府町長 熊谷 ゆたか 様をはじめ、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、挙行できますことに厚く御礼申し上げます。子どもたちが、たくましく成長し、無事卒業できますのも、ひとえに、皆様方のご支援の賜物と存じます。ありがとうございます。卒業式に当たり、本日ご参列の保護者の皆様に九年間の義務教育を終えられたことに対し、先ずもって心よりお慶び申し上げます。保護者の皆様におかれましては、九年間のお子様に係わるさまざまな思い出が、心の中で駆け巡っておられるのではないかと存じます。また、これまでの三年間、本校の教育活動へ、ご理解とご協力をお寄せいただきましたことに、深く感謝申し上げます。



さて、三年生の皆さん。卒業おめでとうございます。卒業にあたり、みなさんに「人間は考える葦である」という話をしたいと思います。これは、ブлез パスカルという人の言葉です。パスカルという名前は皆さん聞いたことがあると思います。十七世紀に活躍したフランスの数学者、科学者で、理科で習った圧力の単位 パスカル「パスカルの原理」を発見した人です。彼が亡くなった後に彼が書いたメモなどがまとめられて「パンセ」(瞑想録)として出版されました。そのパンセの中に「人間はひとときの葦にすぎない。自然のなかでは最も弱いものである。だがそれは考える葦である。」という言葉があります。葦というのはススキに似た穂を付ける多年草で、弱々しいものを代表して表現しています。つまり「人間は考える葦である」というのは「人間は葦のように弱い面を持っているが、『考える』ことができる点で、他とは異なり偉大なものである」という意味です。この事を皆さんの三年間と対比して考えてみたいと思います。一年生の二月、感染症蔓延防止のため急に臨時休校になり、3か月続きました。それからも様々な行事が中止や縮小になりました。部活動も再三中止になりました。制限のかかった中でも何かできることはないかとみなさんは必死に考えました。この卒業式もそうです。練習の時間も例年の半分ぐらいしか取れませんでした。各自が考えシミュレーションをし、本日を迎えています。部活動では練習時間や活動内容が制限されました。各部とも短時間で効果が上がる練習方法を顧問と必死に考えました。対外試合が禁止になる中、実践を中心とした練習を組み立てるなど工夫をしました。そして、中総体、コンクールでは自分の限界に挑戦するために全力で汗を流し、多くの部が上位大会に進出しました。パソコン室、美術室では、3年生を中心に作品制作、ブラインドタッチなどに本当に黙々と取り組んでいました。その中でも、駅伝部は辛くても、苦しくても、負けずに、互いに声を掛け合って一生懸命走り込み、滋賀県で行われた、全国の猛者が集まる全国中学校駅伝大会で襷をつなげました。体育祭では大声禁止など多くの規制がありましたが、団長を中心にカラー毎に工夫をこらした応援合戦は見る人の心を魅了しました。練習の時から、下級生に対して感染症対策には厳しく指導し、その他は優しく接しリーダーシップを発揮して全校が一つに燃え上がりました。時期も方面も大きく変更せざるをえなかった修学旅行、制約が多い中、自分たちで工夫し、楽しみました。食事の時間の黙食、従業員さんの足音が聞こえるほど皆さんは感染症対策を意識していました。那須ハイランドパークでのマスク越しにも分かる皆さんのほじけた笑顔が忘れられません。2年ぶりに開催した合唱コンクール、2年間大きな声で合唱をしていなかったのも、最初はウグイスの初音のように、たどたどしい歌声でした。しかし自分たちで、練習方法を考え、心を合わせ、当日はホールいっぱい歌声がひびきわたりました。



これらの活動の中心となって、下級生をリードし、しらかし台中学校の新たな1ページを刻んだのが卒業生の皆さんであることは間違いありません。おそらく後輩に脈々と引き継がれていくことと思います。これから皆さんが活躍する未来には、この2年間のように想像もつかないことが起こるかもしれません。しかし、皆さんがよく考え、行動することによって不可能と思われていたことが可能となることも十分にあります。そしてみなさんにはそのような力が十分に備わっています。自信をもって挑戦してください。

卒業生のみなさんの洋々たる前途を祝し、式辞といたします。

春の柔らかな日差しを受け、新たな生命が芽吹き始めるこの佳き日に、私たち三年生87名は卒業します。本日は、お忙しい中、多くの方のご臨席を賜り、私たちのために素晴らしい式を挙げて下さいましたこと、卒業生を代表して心より感謝申し上げます。今、校長先生からいただいた卒業証書を見ますと、しらかし台中学校で過ごした沢山の思い出が、次々と胸に蘇ります。三年前の入学式から始まった中学校生活。私たちはとても幼く、知識も考える力も足りませんでした。そのため、授業や生活の中で、人の話を聴くことを大切にしてきました。先生や先輩方がかけてくださった言葉の一つ一つが、私たちの中でパズルのピースのようにつながり、自分というものが作られ始めたように思います。

中学校生活で一番多くの時間をかけた部活動は、大切なことを教えてくれました。全力で勝利を目指すこと。明確な目標を持ち、努力すること。悔しい、嬉しい、楽しい、辛い、たくさんの感情を味わったのも部活動です。最後の中総体、仲間と涙を流した人もいました。文化部にも、闘いの時がありました。時には、辛くてやめたい時でも、努力することに意味があるのか、分からなくなることもありましたが、それでも、最後までやり遂げる事ができたのは、共に励まし合ってきた仲間、私たちの可能性を信じ指導して下さいました先生、そして、いつも支えてくれた家族の存在があったからです。先輩方の思いも乗せて挑んだ全国駅伝大会。多くの人が応援してくれました。毎日、朝早くから練習を見守り続けてくれた校長先生をはじめ、激励してくれた先生方。学年の仲間たちからの応援メッセージ。その一つ一つを噛み締めるたびに、自分たちが、どれだけ周りの人に支えられていたのを感じました。挑戦することには勇気がいります。不安で押し潰されそうになることもあります。しかし、そんな経験ができることは幸せなことなのだと、今なら分かります。私たちは多くのものに恵まれ、素晴らしい経験を積むことができたことを感謝しています。

しらかし台中学校には魅力的な行事がありました。カラーが一丸となり、団長を中心に勝利を目指した体育祭。応援合戦では、制限がある中でもより良いものを作り出すために、振り付けやフォーメーションを工夫しました。指示を出す立場になって、大変なこともありましたが、一人一人が大切な役割を果たし、集団として大きな力を発揮しました。同じ色のTシャツを着た仲間と共に、マスクの下から大声を出し、体いっぱい表現した応援合戦は、かけがえのない宝物です。各クラスが最優秀賞を目指して練習を重ねた合唱コンクール。今年は二年ぶりの開催となり、久しぶりの練習では、自分たちの声の小ささに愕然としました。それでも、みんなで思いを共有し、声を掛け合って歌声を高め合い、本番は精一杯の声をホールに響かせました。みんなで声を合わせて歌うことの楽しさを思い出し、胸が一杯になりました。本当に行けるのかわからなかった修学旅行。世界遺産の日光東照宮では、歴史ある建造物の迫力を体感しました。今思えば、栃木だからこそ学べたことがたくさんありました。友達と一緒に過ごした三日間はあっという間で、楽しくて、いっぱい笑って、最高の思い出になりました。私たちの中学校生活は、コロナ禍で思い通りにいかないことが多くありました。行事のたびに、いつ中止になるかという不安がつきまといました。体験できなかった行事も、歌えなかった歌もあります。今日、私たちが歌うはずだった合唱曲「僕のこと」には、このような歌詞があります。

僕らは知っている 奇跡は死んでいる 努力も孤独も 報われないことがある

だけどね それでもね 今日まで歩いてきた 日々を人は呼ぶ それがね 軌跡だと

私たちの奇跡は、死んでしまったのでしょうか。私たちの努力は報われないのでしょうか。いいえ、そんなことはありません。私たちにはどうすることもできない厳しい現実はありませんでしたが、それは私たちに成長のチャンスを与えました。できないことを嘆くのではなく、まだ誰も経験したことのない、新しいものを生み出す素晴らしさを教えてくれたのです。私たちは、できることをひたすら求め、今日まで必死でがんばってきました。どんな試練も、私たちから成長を奪うことはできません。いつでも希望を持ち、楽しみを作り出そうとした心の明るさは、私たちの強みであり、誇りです。

在校生の皆さん。これまで頼りない私たちを支えてくれて、ありがとうございます。どんな時にも希望はあります。だから安心して、常に最善を尽くしてください。そして、皆さんの知恵とパワーで、学校をより発展させていってください。私たちのしらかし台中学校を、よろしく願います。先生方。先生方はいつも私たちを信じ、明るい笑顔で導いて下さいました。そして、どんな時も私たちにまっすぐに向き合い、愛情を持って真剣に叱って下さいました。いつか、先生方から学んだことが役に立つ日が必ず来ます。その時、私たちは何度も先生方を思い出すでしょう。今まで、本当にありがとうございます。

お父さんお母さん。この三年間で、私たちは成長した姿を見せられたでしょうか。反抗して、心ない言葉で傷つけてしまった日もあったと思います。それでも、全部受け止めてくれて、ありがとう。どんな時も応援してくれて、やりたいことを全力でやらせてくれて、辛い時そばで支えてくれて、ありがとう。本当にありがとう。私たちはお父さんとお母さんのもとに生まれてくることができ、とても幸せです。いつか家族の元を離れ、自分の力で生きていく日がきたとき、最高の恩返しができるように、これからも頑張っていきます。三年生のみんな。とうとう別れの時です。入学式と同じ体育館、同じメンバー。あの日、名前も知らなかった友達とも、今では大口開けて笑い合い、悩みを打ち明け、文句も言い合える仲間になりました。でも、明日からはあの教室で何気ないおしゃべりに花を咲かせることも、冗談を言ってふざけ合うこともできません。こんなにもよい仲間たちと離れるのは、寂しいです。これからは勉強を頑張る人、特技を伸ばす人、社会に出て行く人、それぞれが別の道を進みます。これは自分の夢をつかむための別れです。今は寂しさを胸にしまい、次のステージに力強く踏み出していきます。この広い世界の中で、しらかし台中学校の、この学年の87人に選ばれたこと、みんなと出会い、共に過ごせたことを、私は一生忘れません。みんな、ありがとう。最後に、今日みんなと歌えなかった「僕のこと」の歌詞を、代わりに朗読させてください。

ああ なんて素敵なお日だ 幸せに悩める今日も ポロポロになれている今日も

ああ 息をして足宛(もが)いている 全て僕のこと あの日の僕らのこと

僕は僕として、いまを生きてゆく とても愛しい事だ

本日お集まりいただきました皆様に、改めて感謝申し上げますとともに、皆様方のご健康と、しらかし台中学校のますますの発展を心よりお祈りし、答辞といたします。



伴奏にのせて